

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	理念にある「(地域や家族と)共に歩むケア」についてはまだ検討自体も十分でないので取り組みを進めていきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		各種団体や地域活動への関わりをより深めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	今年度はまだ取り組んでいない。	○	次年度より学生実習の受け入れを行うことになっている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に説明し、自己評価票も全員で検討した。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見・要望をもとに改善につなげていけるように取り組んでいる。実際に職員の接遇に関する要望について改善に向けての取り組みを行うなどした。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当職員に対して、困ったことや質問事項があれば聞いている。	○	事業所の考え方や実態をよく知ってもらい、課題解決に向けて市町村との積極的な連携を図っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	対象者となる方は現在いない。入所申込時に地域福祉権利擁護事業を利用しておられる方がおられ、その際、パンフレットを使用して地域福祉権利養護事業と成年後見制度について説明し、話し合いを行ったが、最終的には制度を活用する必要はなかった。	○	今後も必要な方には制度を活用できるよう支援していきたい。そのためにも権利擁護に関する制度について職員間で学習する機会を設けていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法にそって虐待防止マニュアルを作成し、運営規程にも取り扱い方針を揚げたが、具体的な職員研修等はまだ実施していない。	○	施設内での勉強会、研修会への参加を行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって説明している。重度化や看取りについての対応、医療連携体制等の説明も行い同意を得ている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をしている。管理者や職員に対しては特別な機会を設けなくても普段から様々な意見・要望等が出されている。直近の運営推進会議にて、事業所職員以外の人に意見・要望等を述べる機会を設けてもらいたいとの要望があった。	○ 事業所職員以外の者に利用者が意見・要望を述べる機会を設ける。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日頃より面会時や電話にて利用者の状況を報告している。又、3ヶ月に一回、担当職員よりたより(『家庭通信』)を郵送し状況報告を行っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	遠慮なく意見・苦情を言っていたり声掛けを行っている。実際に苦情が発生し解決を図っていく際は、「社会福祉法人多伎の郷苦情解決実施要領」にそって行い、希望に応じて第三者委員にも関わってもらうことになっている。又、年末に行う忘年会にて家族懇談会も実施することになっている。	○ 定期的に家族懇談会を実施し、意見、不満、苦情等を聞いたりする機会を設けていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを月1回行い、意見を聞き、反映させるように努めている。日頃から意見を言いやすい雰囲気を作るようにしている。不満等言い難い部分もあるので、把握しきれていない可能性もある。	○ 次年度事業計画の作成時等において、職員意見を十分反映させるよう努めていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者は状況に応じた対応ができるよう通常の交替勤務のシフトに入っていないため、夜間の対応や利用者の状態の変化に応じた柔軟な対応が取れるようにしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設より職員の変更は行われていない。各ユニットの職員は固定化し、馴染みの関係を心がけている。新しい職員が入った時は利用者に紹介している。	○ 今後も職員の異動にあたっては利用者へのダメージを必要最小限に抑えるよう努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報を得るようにし、支障のない限り受講できるようにしている。認知症研修においても受講層に応じて受講可能な職員は次の研修の申し込みをするようにしている。法人内の勉強会には出来るだけ多数出席するようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開所前の他のグループホームの見学や職員研修は様々な面で参考になった。市内の認知症グループホーム連絡協議会に加入し、会議や研修会に参加している。連絡会の後に他施設の見学を行っている。	○ 認知症グループホーム連絡協議会の行う取り組みに積極的に参加していきたい。開所前同様、機会があれば他のグループホームの見学等を実施していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	余裕のある人員配置、休憩時間の確保、有休の取り易い環境作りに配慮している。法人として安全衛生委員会を月1回実施しており管理者が出席し職員へも報告等を行っている。会において、うつ予防等の研修を行ったり、働き易い環境を整えるための職場巡視を行っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	法人として正規職員への登用試験、資格取得の支援や取得後の昇給などにより向上心をもって働けるよう努めている。運営者は日頃より個々の職員の話をよく聞き状況を把握しているが、一方、産業医として健康診断の実施及び結果に基づいての指導・アドバイスをを行っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談があった時は必ず本人に会い、生活状況や心身の状態を把握し、良い関係を築けるようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまでの経緯についてゆっくりと聞き、これからの生活をどのようにしていくかについて家族と共に考えるようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所することが本当に必要かどうかを本人、家族、必要に応じて今まで関わってきた在宅のケアマネージャーや施設・病院の相談員等と検討し、その方にとって一番良い方法がとれるよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が事前にホームを見学に来られることもあるが、十分に納得されないままに入所された事例もある。	○	現在、満床となり、入所の相談や申込をされた方が数名おられる状況である。今後はこのような方に対してできるだけ事前にホームを見学し馴染んでいただく機会を設けていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の思いや苦しみ、不安、喜びなどを知ることに努め、暮らしの中で共に支えあう関係づくりに留意している。	○	今後も支えあう関係を続けていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	今までの介護の状況を聞いたり、ホームでの日々の暮らしの様子を伝える中で利用者の出来事を一緒に共有し、協力関係が築けるよう努力している。	○	情報交換を密にし、利用者に関することを共有しながら一緒に考えて支えていける関係づくりをしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	機会があれば、家庭への外出、家族との外出を進めている。夏祭りでは家族を招待し、多くの参加があった。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している理容院に行き続けている利用者がある。	○	馴染みの人や場所についての把握をさらに進め、知人・友人の面会を働きかけるなど実現の可能性の高いことから取り組んでいきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日のお茶や食事の時間は職員も一緒に多くの会話を持つようにしたり、役割活動を通して利用者同士の関係が円滑になるよう働きかけている。開所後7ヶ月が経過し、利用者同士の会話が多くなりつつある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者や家族の希望がないので実施していない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者本人の希望を取り入れて支援に努めている。(日々の過ごし方、散歩や買物等)		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人の話や家族の面会時等にこれまでの生活状況を折に触れ聞いている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活リズムを知り、体調の把握に努めている。	○	「出来ること出来ないことシート」を活用し、その人の出来ることに注目し、その人全体の把握に努めていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がその人らしく暮らしていけるよう、本人や家族の要望を聞き、職員間での意見交換、モニタリング、カンファレンスを行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間が終了する前に見直し、状態が変化した際にはその時点で計画を変更している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のファイルに食事・排泄等身体的状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉はエピソード等を記録している。いつでも職員が確認できるようにし、勤務前に必ず確認するようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かしてその利用者にとって負担となる受診の回避、医療処置を受けながらの生活の継続を行っている。本人、家族の状況に応じて、通院、往診など必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足を高めるように努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を通し、民生委員、市役所等との意見交換の機会を設けている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	図書館を活用したり、地域にある他施設や事業所で行われている行事や活動と一緒に参加したりしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入所申込時に地域福祉権利擁護事業を利用しておられる方がおられ、この事業や成年後見制度の活用について地域包括支援センターからアドバイスを受けた。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。体調変化時には往診依頼し、診察してもらっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて専門医の受診を行っている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態の変化に応じた支援を行っている。看護職員が勤務でない時も常に連絡が取れるようにしている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院の医療連携室、家族とも情報交換しながら、回復状態の確認を行っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取りの指針」を作成し、利用者、家族に説明し同意を得ている。重度化した場合については入所時にある程度の相談をしているが、終末期のあり方については具体的な話し合いをしておらず、方針の共有はまだできていない。	○	「看取りの指針」をもとに今後のことを本人、家族等と話し合っていきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	悪性疾患にて化学療法を医療機関で行っている利用者に対し、本人の気持ちを大切に家族と話し合い、利用者が安心して終末期を過ごしていただけるよう取り組んでいる。急変時にはすぐに対応してもらえるよう医療機関とも連絡を密に対応している。	○	利用者が安心して終末期を過ごしていただけるよう取り組んでいきたい。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅より馴染みの家具等を持ってきたもったりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングの際、利用者の誇りやプライバシーを損なわないよう対応の方法を話し合っている。	○	個人情報の適切な取扱いのためのガイドライン等をもとに研修の機会を設け、個人情報保護法の理解に努めたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせて声をかけ、些細なことでも本人が決める場面を作っている。(飲食物の選択、する・しない等)		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、買物や散歩などを一人一人の状態や思いに配慮しながら対応している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	日々の身だしなみはその人に合わせて整えられるよう支援している。理容・美容については今までの馴染みの店に行かれる方もいる。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、片付け等は利用者と共に、職員と利用者が同じテーブルで食事を摂っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物は利用者の好きなものを楽しんでいただけるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間や習慣を把握しトイレ誘導することでトイレでの排泄を促している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は決めてあるが、本人が希望すれば毎日本人の希望の時間帯に入浴できるようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。寝付けない時は温かい飲み物を飲みながらお話したりしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。干し柿作り、おはぎ作り等経験や知恵を発揮する場面を作っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が小遣いを自己管理している人もいる。管理している利用者も外出時にはお金を自分で支払ってもらうようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や本人の希望に応じて日常的に散歩、ドライブあるいは買物に出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠足等を計画し、出かける機会を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて日常的に電話をしたり手紙を出すことができるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は定めていない。家族の都合のいい時間にいつでも訪れてもらえるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営規程に身体拘束等の禁止について規定しており、契約書、重要事項説明書でも具体的な説明をしている。身体拘束廃止マニュアルも作成している。しかし、高齢者権利擁護や身体拘束廃止に関する職員の勉強会はまだ実施していない。	○	研修会に参加したり、ホームでの勉強会を実施していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は鍵はしていないが、自動ドアで外へ出る際はボタン操作をしなければ開かない。居室には鍵をしていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は職員はホールにて記録を行い、状況を把握するようにしている。夜間は数時間毎に様子観察を行っている。起きた時にすぐに対応できるように夜勤職員の居場所を工夫している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせて注意が必要な物品とそうでないものに分けて管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のひやりハットを記録し、職員の共通認識を図っている。万が一事故が発生した場合には事故報告書を作成し、事故原因の予防対策について検討し、家族へ説明と報告を行うことにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	開所前に全職員で救急蘇生の勉強会を行った。7月にも消防署の協力を得て救急救命講習を受けた。	○	今後も毎年1回は勉強会を実施していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、自衛消防訓練(総合訓練)を行った。	○	地域の協力体制については自治会に協力を得られるよう依頼していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	転倒されるリスクが高いことは家族にも理解していただくよう説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況をスタッフは把握しており、変化が見られた時はバイタル測定を行い、記録している。必要時にはかかりつけ医に報告し、指示を得ている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成、内服薬の内容は個人ファイルに綴じ、職員が内容を把握できるようにしている。服薬はカップ等に入れて手渡しし、きちんと服薬できているか確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	散歩等を行い身体を動かす機会を設けている。食事は野菜が多い。便秘傾向にある人は緩下剤も使用している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い、見守ったり介助を行っている。就寝時、義歯洗浄を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。水分も不足しがちな方は注意し、水分摂取を促している。飲み物のメニューも貼り出している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者及び家族の同意をいただきインフルエンザ予防接種を受けてもらった。職員も受けている。ノロウイルス対策としてペーパータオルを使用する等予防に努めている。	○	マニュアルを作成し、全職員が学習し、予防対策に努めていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器乾燥機を使用している。包丁・まな板も使用後は乾燥機に入れている。食材は買いためしないようにし、冷蔵庫・冷凍庫の食材の点検を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	自動ドア、透明ガラスでもあり、玄関より職員の顔がすぐに見える。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日光が当たりすぎることもあるのでカーテンなどで調節している。利用者の好みの音楽を流したり、テーブルの上に季節の花を生けたりし、季節感を出している。茶碗を洗う音も聞こえ、ご飯の炊ける匂いもする団欒室は掘りごたつになっており、くつろげるスペースとなっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一時的に玄関やベランダにテーブル、椅子を置いてくつろいでもらうことはあるが、居場所づくりとまではなっていない。食堂にあんま機を置いているがここに座ってくつろいで過ごされる方もいる。	○	ベランダ、廊下等の空きスペースを活用してテーブル、ソファ等置き花などで装飾する等工夫していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や日用品を持ってきてもらい、本人・家族と相談しながら配置を考えている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天候をみながら、自然の風が入るように換気を行っている。トイレは汚染等があれば直ちに掃除を行ったり消臭剤を使用したりしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所の流しの高さや物干しの高さなどは利用者の作業がしやすいものとなっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その人の力を取り戻せるか見極めるよう努力をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭には一面に芝が生えており、畑のスペースを確保し、利用者が日常的に楽しみながら活動できるような環境を作っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	サービ ズ評価 ○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
		○	③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)